

「明日へ未来へ北の大地の森づくり」

第五十八回全国植樹祭に本町から九十三人が参加

(社)国土緑化推進機構と北海道が主催し六月二十四日、第五十八回全国植樹祭が天皇、皇后両陛下をお迎えし、北海道では四十六年ぶりに苫小牧市字静川「つた森山林」で行われました。

道内外から約一万人が集う国内最大規模の緑の祭典に、本町から藤原町長、河村町議会議長をはじめ、各団体などからの推薦や一般公募により九十三人が参加。三台のバスに分乗し会場に到着した参加者は、指定された区域に北海道プラなどの苗木を一人二、三本ずつ植樹した後、記念式典に臨みました。一般公募で参加した山田くみこ(朝日)さん、萌絵さん(小学一年)親子は「近郊で行われる大きな行事なので思い出になると思い応募しました。私たちが植えた苗木が大きな木に成長することを願いながら植樹しました」と話していました。



式典の様子と植樹をする厚真から参加した皆さん(左下)

「おばあちゃんがいてくれたからこそ今の私たちがいる」

明治40年6月7日に厚真村ハビウ(現高丘)で生まれた、新保すぎよさん(幌内)が6月7日、満100歳の誕生日を迎えられ、豊厚園で親族が見守る中、町から祝い品、入居している仲間から花束などが贈られました。

新保さんは、お祝いの横断幕の文字を読み上げることができるほど、今でも目や耳が達者で、子ども11人、孫11人、ひ孫23人、玄孫8人のたくさんの家族にも恵まれました。

お孫さんから感謝の言葉が綴られた手紙を受け取った新保さんは、うれし涙を浮かべていました。

親族の皆さんに囲まれるすぎよさん



▲お孫さんから贈られた手紙

勲記を受け取る息子さんの中田久博さん



前町選挙管理委員長 故中田光雄さんが旭日単光章

今年2月に亡くなられた前町選挙管理委員会委員長の故中田光雄さん(宇隆)さんが旭日単光章の特別叙勲を受け、6月6日、役場町長室で伝達式が行われました。伝達式では、長男の中田久博さんが出席し、橋野茂北海道胆振支庁副支庁長から勲記と勲章が伝達されました。

故人におかれては、選挙管理委員として昭和50年10月から7期28年、うち平成10年4月からは委員長として、選挙に関し公正な識見を有し、国政選挙26回地方選挙31回の執行にあたられ、地方自治の発展に貢献されました。

まちの話題

無我夢中の30分 バケツリレーで初期消火

勇気ある5人の行動に 消防から感謝状



感謝状を贈られた皆さん

四月三十日に厚真市街地で廃材が燃え、家屋に延焼する手前で、バケツリレーなどにより、初期消火した五人の町民の方々に六月六日、胆振東部消防組合管理者藤原町長から感謝状が贈られました。

感謝状を贈られたのは、古本千合光さん(表町)、お孫さんの尋輝さん(厚高一年)、中島正巳さん(京町)、加賀谷幸廣さん(表町)、山口喜代子さん(本郷)の五人で、山口さんを除く四人が出席。藤原町長が「身の危険を顧みないで初期消火に努められ、大事に至らなかった。皆さんの勇敢な行動に感謝したい」と言葉をかけていました。四月三十日は、町内で林野火災があり消防車や署団員はそちらの現場に出勤している状態。感謝状を受け取った四人は異口同音に「煙がひどかった。延焼しないように無我夢中で水をかけた。消火できて本当によかった」と話していました。

交通ルールを守り子どもたちの手本に

厚真高等学校(永田敏夫校長)で6月4日、全校生徒により交通安全教室と交通安全街頭啓発が行われました。

菅原俊二厚真駐在所長による講話、ビデオ上映、交通安全標語の表彰式が行われた後、生徒会長の東田一成さん(3年)が「子どもたちの手本になるよう交通ルールを遵守していきたい」と声高らかに宣言しました。

その後、生徒たちはこぶしの湯あつま下の道道沿いで、行き交うドライバーに交通安全旗や横断幕で、安全運転を呼びかけていました。



6月8日、町民ボランティア約30人により、厚真川左岸河川敷(新町)にコスモス、黄花コスモス、ひまわりなどの種が植えられました。

今年で4年目となるこの種まき作業。夏から秋にかけて色とりどりの花が咲き誇る情景は、行き交う人たちの目を楽ませる風物詩になっています。

昨年秋にこの河川敷で収穫した種約10kgを、ボランティアの皆さんは今年も見事な花が咲くことを願いながら種をまいていました。



コスモスやひまわりが咲き誇る厚真川河川敷に



二五種の花や葉物を 配色とバランスを考えて

町コミュニティ運動推進協議会(松井満男会長)では六月四日、総合福祉センター前で今年で五回目となる「ガーデンニング講習会」を、講師に三好光子さん(上野)を迎え行いました。

親子、孫三世代四人で参加した尾谷道子さん(宇隆)は「花が大好きな私たちにとってこの講習会は、毎年楽しみなんですよ」と配色とバランスを考えながら寄せ植えをしていました。



ネチネチ小言は× 時には大事で叱ることも

町青少年健全育成委員会(野澤政博委員長)などが主催し六月二十一日、子育てセミナーが総合福祉センターで行われました。講師に長年教育者として経験豊かな高柳晃さんを招き、「子どもの心が読めますか?」をテーマに講演。高柳さんは、褒める時、叱る時も励ましの気持ちと愛情も持つことの大切さを話していました。また、参加者の子育てに関する遺言三カ条(下)を贈りました。

- 第1条 子育ては生涯かけて果たすいわば「芸術」である。
- 第2条 子どもの開発すべき能力は、無限のものと心得よ。
- 第3条 子どもの未来に向けた夢を育て上げることが、子育ての根源であることを心得よ。

まちの話題 plus



表彰される石塚東洋雄さん(左)

石塚さんに国際ソロプチミスト賞

このほど、NPO法人YAGENフットボールクラブ代表石塚東洋雄さんに、世界的なネットワークを持つ奉仕団体ソロプチミスト日本財団から青少年指導者育成賞が苫小牧市内のホテルで授与されました。

表彰は、サッカーを通じて青少年の健全育成、指導者の育成を図るとともに地域振興に寄与したことが高く評価されたもので、道内でのサッカー界からの受賞は初めてとなります。

石塚さんは「荣誉ある賞をいただき感激です。今後も気を引き締めて努力、前進したい」と受賞の喜びを話していました。

上位大会目指し互いに研さん

6月13日、町と農協が主催し平成19年度第39回町家畜共進会が上野家畜共進会場で行われ、町内の生産者から乳牛11頭、黒毛和種46頭が出陳され、各部門で体のバランスや色つやなどを競いました。畑嶋副町長が「昨年厚真の和牛が全道大会のグランプリを獲得し感激しました。また、3年後は安平町で乳牛の全国大会も行われます。全道、全国レベルで力を注ぐ生産者の皆さんに敬意を表したい」と開会式であいさつしていました。

各部の最優秀賞 乳牛の部/山田澄恵さん(浜厚真)出陳「オーシヤンクレストサロメ」、黒毛和種の部/今野昭男さん(豊丘)出陳「つかさの7」、肉豚の部/術希望農場



一頭一頭に講評する審査員(左)



連携よく花を植える上厚真小6年生

全国植樹祭会場で歓迎の花壇づくり

6月14日、上厚真小学校(横山守校長)の5、6年生が全国植樹祭が行われる苫小牧市静川の同会場で、全国から会場に訪れる方々を迎えるウェルカム花壇づくりを行いました。

胆振森づくりセンター職員、本町のフラワーマスター河村美枝子さん(軽舞)、前田なみ子さん(本郷)の指導で、5年生が「スマイル」、6年生が「北海道」をテーマに、児童たちは協力しながら連携よく花を植え込みました。6年生の佐藤明香里さんは「きれいな花の絵に見えるように植えて、来た人に喜んでもらいたい」と話していました。

ホタルが飛び交うふるさとづくり

昔のようにホタルが飛び交うふるさとへと願いを込め6月15日、町民有志8人が開基100年記念公園(豊沢)内の池にヘイケボタルの幼虫800匹を放流しました。有志の一人、黒田久義さん(錦町)が昨年訪れた空知管内沼田町で見たホタルの美しさに感動。厚真にもホタルが育ってくれたらと、有志の皆さんと沼田町ホタルの会会長の野道夫さんの指導を受け、今年の春からホタルの餌になるカワニナの放流、水質改善など準備を進めてきました。黒田さんは「歩みはじめたばかりですが、近いうちにホタルがたくさん飛び交う町にしたい」と話していました。



ホタルの幼虫を放流する有志の皆さん



左から松本くん、高橋くん、土居くん

厚中生徒 3 人空手団体形で全国大会へ

厚真空手クラブ少年団に所属する、厚真中学校の高橋知賢くん（表町・3年）、土居拓也くん（本郷・3年）、松本大樹くん（表町・2年）が6月17日、札幌市で行われた第12回全道中学生空手道選手権大会（兼全国大会道予選会）の男子団体形の部で準優勝に輝き、8月千葉県浦安市で開催される全国大会の出場権を獲得しました。

全国大会に向けて南澤徹先生（岩見沢市）の指導で練習に余念のない3人は「練習の成果を発揮して3人で呼吸合わせ形を行い、ひとつでも上位に進みたい」と大会に向けて意気込みを話していました。

第 8 回 P G 大会の栄冠は南町自治会に

6月28日、新町 P G 場で自治会対抗パークゴルフ夏季大会が行われ、14自治会から19チーム89人が出場して、日ごろの練習の成果を発揮するとともに交流を深めました。道内でも珍しいナイター設備がある同 P G 場ならではのナイトゲームで、夏季と秋季に行われるこの大会は今回で8回目になり、回数を重ねるごとに参加選手は増えています。組に分かれた選手たちは、和やかな雰囲気の中にも真剣な眼差しでプレーをしていました。

優勝／南町（都築紀昭、都築紀勝、都築静、蔵重、小路）、2位／新町 A（幅田、岩田、中、島村、中島）、3位ウクル【宇隆】（田野栄、田野勝、森田、加賀谷、高橋）【敬称略】



照明が灯る中でプレーする選手の皆さん



降り注ぐ日差しの中で植栽する皆さん

今年も国道沿いに彩り添える

浜厚真景観整備振興会（館山睿会長）が6月22日、国道235号線沿いの用地約1,000㎡にマリーゴールド、サルビア、クレオメの3種4,200株の苗を植え込みました。道路の美化を目的とした北海道開発局が行っているボランティア・サポート・プログラムの中で実施した、この植え込み作業に、同会員、開発局職員、町職員など約30人が参加しました。館山会長は「花を植えることで地球温暖化の防止にはつながらないかもしれないけれど、小さな活動が大きな動きになるようお願いを込めて植えました」と額に玉の汗を浮かべながら作業を進めていました。

ポイ捨てのないきれいな町へ一役

6月21日、「ポイ捨て0の日」を合言葉に厚真・上厚真両市街地周辺でごみ拾いが行われました。

厚真市街地では、役場で環境美化を担当する山田政紀町民課長から「これから本格的な行楽シーズンを迎えるので、厚真を訪れたり通る人たちが、ごみがないきれいな町だと感じてもらうためにも皆さんのご協力を」と町内の各団体や事業所などから集まった方々にあいさつ。参加した高田真知子（朝日）さんは「私が担当したところは空き缶は少なかったけれど、たばこのポイ捨てが目立ちましたね」と感想を話していました。



道ばたのごみを拾う参加した方々



町内小中高校7校の校歌を編曲した太田さん

太田さん町内 7 小中高校の校歌を編曲

札幌市在住の太田保久さんが町内の7小中校の校歌を吹奏楽用に編曲し、その譜面とパソコンで録音したCDを6月29日、町民吹奏楽団（松下一彦代表）に手渡しました。太田さんは、前苫小牧市消防音楽隊長などを務められ、同楽団が演奏する田舎まつり音頭は太田さんの編曲によるもの。「校歌を大切にしたいという思いで作りました。学校の雰囲気を知らするために一日かけて各学校を見てきたんですよ。子どもたちでも演奏できるようにアレンジしたつもり」と太田さん。

楽譜などは同楽団を通して各学校に贈られます。